

井草会報

2012
No.45

発行 井草会
練馬区上石神井 2-2-43
東京都立井草高等学校内

70年の井草の絆 これまでも いつまでも

昨年度、井草会として、井草高校創立70周年式典行事と2011同窓会の二大イベントを滞りなく行うことができました。ひとえに同窓会会員の皆様の多大なご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、井草会を取り巻く環境は日々変化しています。また、井草高校の教育環境も大きく変わりつつあります。このような状況を踏まえ、井草会は創立70周年を一つの区切りとして、新たなスタートを切る所存です。今回の役員改選期においては、井草会が将来も活動を継続していくことができる基盤を整えるため、役員には若い世代の人たちを多く選んでいます。また、井草会活動の一層の効率化を図るべく組織の見直しを行います。例えば、名簿・会費委員会を廃止して、これらの持つ役割を事務局に統合し、同窓会財産とも言うべき名簿・会費の管理効率を上げることを目指しています。さらに、今後、重要となる井草会の歴史や同窓会員からの資料提供等の保存を図る取組みをスタートする予定です。こ

れらはホームページでの情報提供と情報収集を中心に進めていきます。

一方、学校支援もますます井草会の重要な役割となります。従来の国際交流事業支援に加え、学校のPR活動への支援等、PTAとも協力して進めていきます。

さらなる井草会発展のため、また、井草会会員の期待に応えるべく、同窓生同士そして恩師と生徒、さらには井草会・PTA・学校がしっかりと連携して「井草の絆」で結ばれるように、井草会活動を進めてまいりますので、同窓会会員の皆様の力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

井草会会長 月岡 健一（17回G組）

創立70周年式典での記念講演&ビデオレター



東京芸大教授
手塚雄二さん(23B)



アサヒビール副社長
本山和夫さん(20B)



爆笑問題
田中裕二さん(35E)

創立70周年記念祝賀会

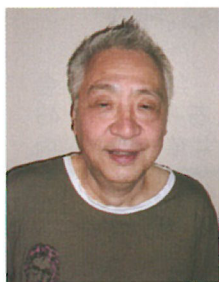


同窓生とPTAによるコーラス

目次

70年の井草の絆 これまでも いつまでも	1	クラブ活動めぐり（書道部・弓道部）	6
OB・OGインタビュー（湊 剛さん）	2	幹事総会報告・予算決算	7
恩師からの便り（本多(大西)芳江・鎌田敏雄先生）	3	井草会掲示板	8
同期会・クラス会報告	4	創立70周年記念思い出文集	9～16
キャンパスニュース	5		

OB・OG インタビュー



湊 剛 さん 14回G組（昭和37年卒）

1965年NHKに入社。「みんなのうた」「ヤングミュージックショー」「若い広場」「若いこだま」「クロスオーバーイレブン」「サウンドストリート」などの主要な音楽番組をディレクター、プロデューサーとして手がけました。

日本のロック、フォーク、ポップスの黎明期にいち早くアーティストを見出して電波にのせた湊さんに、NHKに程近い渋谷の街でお話を伺いました。

Q.井草時代はどんな高校生でしたか？

目立ちたがりやで、音楽好き。小学6年頃からラジオでプレスリーを聴いて格好いいと思いました。母が洋画好きでよく連れて行ってもらいました。ジャズ喫茶ACBへ行ったりして、やりたいことをしていました。担任は山本哲夫先生で、高校時代はほとんど遊んでいた記憶しかありません。父が戦死していたのが影響したのかもしれませんが、おばあちゃん子で、家庭科の山口よしの先生には可愛がっていただきました。

Q.お仕事としてNHKを選ばれたのは？

母がNHKに勤めていた影響もあり、身近に感じていました。「若い季節」や「夢で逢いましょう」などを見て育った世代でポップス系の音楽番組に興味がありました。

NHKに入社して、はじめは美術部デザイン課という部署に配属され、美術セットから衣装までの大道具・小道具を台本を見て調達していました。どうしても音楽番組がやりたくて、ずっと希望を出して変わることができ、好きな仕事をやれるようになりました。

Q.今まで手がけた多くの番組の中で特に思い出深いものは？

FMラジオの「サウンドストリート」。タイトルを新しくし、それまでやっていたオーディションを廃止して、当時は無名だった松任谷正隆、甲斐よしひろ、佐野元春、渋谷陽一、坂本龍一、山下達郎など、若者のオピニオンリーダーになれる人を選び、担当してもらいました。「佐野元春レディオショウ」は今でもNHK・FM火曜日23:00～24:00にやっていますので、聴いてみてください。

テレビでは「みんなのうた」。番組の中で歌われた「山口さんちのツトム君」が百万枚以上の大ヒットになりました。作詞作曲のみなみらんぼうさんは飲み仲間、近所に住んでいて、よく遊びに来ていました。ある日、自転車に乗った、らんぼうさんが外から「あそびましょ！」と呼ぶので、「あとで！」と答えた…、そんな日常の光景に簡単なメロディをつけてもらってできた歌なのです。

Q.今までかかったアーティストの中で一番印象深い人は？

一人選ぶとしたら、坂本龍一さんかな。東京芸大大学院までいき、音楽のアカデミズムなことも解ってい

て、ロックテイストのことも導入できる人。日本語は外国人にはなかなか通じないので、言葉でなく音で勝負して世界的なアーティストになりましたよね。

Q.仕事に対する姿勢は？

一言でいうと、ロックスピリッツ。抵抗勢力を突き破って押し進んでいく。お金のため、視聴率のためでなく、自分が良いと思うもので進んでいきたい。自分が駄目になっていくことにもNoと言いたい。

最近大事にしている言葉は「なつかしい未来 新しい過去」。「温故知新」のような考えで、感受性、歴史観、生き方を大切にしていきたいと思っています。

Q.これから手がけていきたい番組は？

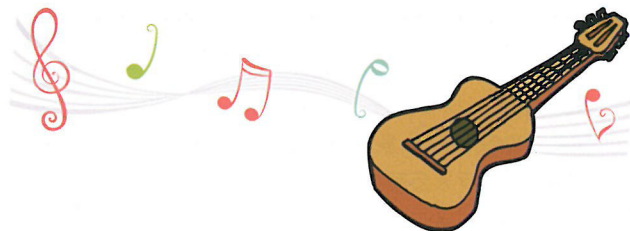
NHKから独立した現在、もう一度優秀なアーティストを発掘したい。

今まではデモテープを送ってもらい、大手（NHK）から個人へという流れだったが、逆に個人からメジャーなメディアへという形でものを作りたい。タイトルはできていて「表現キング」。音楽だけでなく、イラスト、文章、脚本など、対象をティーンズに限って投稿させたい。

その他に『まさしくrockだ！さだまさし』という電子書籍を配信中で、その後、佐野元春、坂本龍一と続けていく予定です。

Q.井草の後輩たちにメッセージを。

高校時代が一番多感な時期で、自分探しのスタートでもあります。好奇心や感受性を豊かにするには①洋楽の良いものを聴くといい。今は歴史観がなくなっているので基礎からやるといい。②いい映画を観ること。「卒業」や「ローマの休日」など。③最近では文字を読まなくなっているから、文章や小説をよく読むこと。歌はカッコイイ！とか可愛い！とかでなく歌詞が大切だと思っています。何でも手っ取り早くやろうとしないで、何が大切か感じて欲しいと思っています。





恩師からの便り



回 想



本多(大西)芳江 先生

(昭39～45年 書道担当)

西京漬けの魚を焼いていた時、電話が鳴った。受話器を取ると「井草高校OBで会報誌の編集をしている植木です」という。ついては、井草高校の卒業生でもある私に「往時の思い出をお書きいただければ幸いです」とのこと。青天の霹靂だった。

指折り数えれば五十数年前になる。大学を卒業したばかりの私は恐いもの知らず、その未熟さをものともせず恩師の誘いによる講師の職に就くべく嬉々として母校の門をくぐった。

私の高校時代、芸術は迷うことなく3年間書道を選択した。中村閑葉先生、上品で穏やかな師であった。井草卒業後、私は学芸大学の書道科に進んだが中村先生もまたその先輩であることを知った。やがて先生は井草高校をやめて大学の方にもどられ後に教授となられた。なにかの折にお会いした時のこと、当時他に学芸大付属高校にも行っておられたが井草高校の生徒の方には野草の面白さがあつた、と言われた。また「オオニシはワタシが朱墨で直すと、その場でクシャクシャと半紙を丸めてしまった…」とも。私の授業でそんな非礼をする生徒はいなかった。汗顔の至り、下げた頭が上げられぬ。

ここで私はあの頃の生徒諸氏にあやまらねばならない。同時期、井草高校には違う曜日に若き日の石飛博光氏がやはり講師として来ていた。大学の同級生である。実力の差は歴然としており私に受け持たれた生徒の方は可哀相であった。ただ彼らを等しく可愛く思う気持は互角であったと思う。

体制に従い学期末に成績を提出するのは実に憂鬱…芸術教科に点差などつけられるはずはない。彼らの豊かな感性の芽を摘んでしまったのではないか、と胸が痛む。

同じ学区で家が近い為、時々生徒が連れ立って遊びに来たがその時は教師のタガが外れ、OBとなって怪しげな話に加わった。あれから半世紀、もはや時効とお許しいただきたい。

植木君との電話は懐かしさで30分以上に及び西京漬けの魚はすっかり焦げていた。



遠い井草と このごろと



鎌田 敏雄 先生

(昭42～51年 数学担当)

井草高校には昭和42年4月から51年12月まで9年9ヶ月いました。その間、22回生(45年卒H組)と27回生(50年卒D組)の担任をしました。同窓会で毎回卒業生の諸君と会うのを楽しみにしています。

井草も遠い思い出になりました。私がいたのは数学の授業に電子式卓上計算機が入り始めた時代で、導入前から借りていろいろな計算に使っていました。コンピューター部の生徒諸君も熱心でした。杉並にある工業教育実習所大型計算機を、部員と一緒に使って使わせてもらいました。この大型計算機では実力テストの成績処理を継続的に行いました。

それから、花いっぱい同好会も楽しい思い出です。中庭に花を植えて花壇を作っていましたら、女子生徒が次第に集まってきて同好会が出来、中庭が花でいっぱいになりました。

冒頭に書きましたが、私は51年12月で井草を去りました。これは新設の小平西高校に開設要員として行ったためです。以後3校で管理職を務め平成8年に退職しました。

ところで現在私は趣味の製本を活かして、もっぱら製本に関するボランティア活動をしています。元々好きだった製本の趣味と退職後都立中央図書館に勤めて身につけた技術を生かして地元で製本研究会を立ち上げて10年目、今では会員が50人を超えています。2つの会場で月に各2回の例会の外に春と秋に市民対象の製本講習会を、夏休みに小学生対象の親子豆本作り教室を市立図書館との共催で行い、市立4小学校で土曜子供講座豆本作り教室を開催するなど1年間に100回を超える講習会を行っています。また、市立図書館の蔵書の補修を大規模に行っています。

今年喜寿になりますが、今しばらくは社会の役に立つ活動を続けていきたいと思っており、それが生きがいにもなっています。

2011年度同期会・クラス会報告

同期会



高校12回同期会



高校21回同期会



高校31回同期会



高校33回同期会



高校34回同期会

クラス会



高校8回C組



高校8回D組



高校12回D組



高校14回A組



高校15回D組



高校19回A組



高校20回H・I組



高校29回C組



高校32回C組

なお、紙面の都合上掲載できなかったクラス会につきましては、井草会ホームページに掲載しています。

キャンパスニュース

井草のめざす教育

都立井草高等学校長 浅井 嘉平

日頃から本校へのご支援、ご協力に対しまして心より感謝申し上げます。

生徒一人ひとりの進路実現を図るためには、学力を向上させる必要があります。授業の充実をはじめ土曜授業導入や土曜講習、長期休業中（夏休みや冬休み等）の集中講座を設定して、生徒一人ひとりの学力向上を図る「井草学力向上プロジェクト」を推進しています。また、卒業して十年後、二十年後の自分の姿を考えさせる進路指導「井草夢プロジェクト」は、第一線で活躍する仕事のプロの講演会を設定し、特色ある大学の授業や教養講座に参加させる「キャリアアップ講座」や「アカデミック講座」を用意しています。

今年3月に卒業した243名の進路状況は、近年にないすばらしい結果になりました。東工大をはじめ国公立7名（昨年5名）、私大の難関大学である早慶上理、MARCHレベル以上に78名（昨年54名）が合格いたしました。4年制大学に80.6%（昨年度67.6%）の生徒が進学し、浪人生他は10.3%（昨年21.4%）に留まりました。全都立高校の中でも際立った進学率です。これらの実績は、先に述べた「学力向上」と「夢」プロジェクトの成果といえるものです。

今年度も、昨年度に引き続きオーストラリアでのホームステイや米国、アジア高校生との国際交流を予定しています。そして、12月には第2学年がシンガポールへ修学旅行に行きます。世界にはばたく国際人の育成「井草国際教育プロジェクト」は、本校の目指す教育を推進する大きな原動力となっております。



来日した米国Sidwell Friends School との交流風景

2012年進路状況・合格状況

（既卒者、推薦入学を含む合格者数）

国公立大学 11名

埼玉2 東京海洋2 帯広畜産1 信州1 高崎経済1 千葉1 電気通信1 東京農業1 東京工業1

私立大学 504名

日本36 東洋29 法政25 駒澤18 成蹊14 帝京14 東京理科大学14 明治14 東京農業13 武蔵13 学習院12 中央12 明星11 東京電機10 大正9 東京工科9 立教9 十文字学園女子8 成城8 大東文化8 武蔵野8 青山学院7 亜細亜7 神田外語7 東海7 東京家政7 日本女子体育7 工学院6 國學院6 上智6 専修6 帝京平成6 東京経済6 目白6 芝浦工業5 昭和女子5 東京都5 日本獣医生命科学5 桜美林4 大妻女子4 国土館4 東京家政学院4 麻布3 跡見学園女子3 玉川3 東京医療保健3 東京工芸3 東京国際3 東京福祉3 東邦3 日本体育3 文教3 明治学院3 早稲田3 杏林2 実践女子2 城西2 白梅学園2 千葉工業2 日本社会事業2 文京学院2 明治薬科2 立正2 学習院女子1 神奈川1 関西1 北里1 慶応義塾1 こども教育宝仙1 駒沢女子1 順天堂1 昭和1 清泉女子1 聖徳1 高千穂1 津田塾1 デジタルハリウッド1 東京有明医療1 東京音楽1 東京女子1 東北工業1 獨協1 二松学舎1 フェリス学院1

短期大学11名 専門学校16名

先生の異動

転 出		転 入	
教科科目	氏 名	教科科目	氏 名
世界史	川島 理大	国 語	小寺 克
地 理	片桐 秀一	世界史	山田 美保
数 学	植竹 完氏	地 理	佐藤 創一郎
生 物	川口 清隆	数 学	佐合 洋彰
保健体育	野村 健一	生 物	矢崎 真衣
保健体育	佐々木 寿子	保健体育	藤原 慎一郎
英 語	渡邊 宏二	保健体育	淵上 奈美子
英 語	田嶋 英治	英 語	佐々木 博美
国 語	三谷 栄紀	英 語	田平 和子
(敬称略)		英 語	中島 修吾

井草会援助金制度のご案内

井草会では、同期会、クラス会、OB・OG会等の開催に対して援助金制度を設けていますので、どうぞご利用ください。援助金は、30名以上の同期会、15名以上（65歳以上は10名以上）のOB・OG会やクラス会に対して給付されます。援助額は、千円/人ですが、クラス会は3万円、その他の会は5万円を上限とし、年に1回限りの申請とさせていただきます。

ハガキかFAX、または井草会ホームページの援助金事前申請用紙に会合名・目的・参加予定人数・開催予定日・幹事名（卒年・組）を明記し、必ず開催日の1週間前までに申請してください。

事前申請の受付終了後に、担当者よりその後の手続きの詳細をお知らせいたします。

この制度は、会員の年会費によって賄われています。年会費の納入に、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【問い合わせ・申し込み先】

井草会同窓委員会 〒177-0044 東京都練馬区上石神井2-2-43 都立井草高校内
TEL/FAX 0120-066-193 井草会メールアドレス igusa@igusakai.org

クラブ活動めぐり

書道部

井草高校書道部の活動を1年間の流れでご紹介いたします。

4月、2年に進級した生徒中心に新入生歓迎会でのパフォーマンス披露。それまで先輩に従って動いていた元1年生が初めて主体的に動きます。

5月、体育祭のスローガンを開会式で書きました。初めての取り組みでしたがなかなかうまくいきました。

6月、いよいよ1年生も交え文化祭での展示作品と9月締切りの書の甲子園出品作品の制作にかかります。これは各々が書きたい作品に取り組めます。

7、8月、各自の作品と同時進行で文化祭でのパフォーマンスの練習を始めます。手足、時には顔までも真っ黒にして練習です。8月上旬、全国大会（全国高等学校総合文化祭）に参加。今年は富山県で行われます。

9月、書の甲子園出品。文化祭での作品展示、パフォーマンス披露。初めての1年生はかなり緊張します。

10月下旬、文化祭の後一息つく暇もなく、東京都高等学校文化連盟書道展に出品する作品仕上げ。この展覧会で最高賞である都教育委員会賞を受賞した生徒（都から7名）が、翌年の全国大会（全国高等学校総合文化祭）に出品できるので生徒は必死です。1年間このために頑張っています。



1月、平成24年は「あけおめパフォーマンス」を袴姿で行いました。

2月、大阪で書の甲子園展。10人に1人しか入選できない難関をくぐり抜けて、1人が入選。

3月、1年生が中心となり新入生歓迎会の準備に入ります。

書道は本来、個人の技で勝負するもので集団でのパフォーマンスと相反する面もあります。しかし、パフォーマンスを通し、時にはぶつかり合うこともあります。お互いをフォローしあいながら認めあう姿が見られ、意味のあるものと考えています。そして個人の作品に取り組むときには徹底して技術の向上を目指し、日々練習と言いつけています。

書道部顧問 喜入 裕基子

弓道部

弓道部は、創部以来中庭で練習してきましたが、平成22年1月に弓道場が完成しました。3人立ちですが、設備は一通りそろっております。そして、外部指導員として、練馬区弓道連盟の内藤光夫先生のご指導を賜っております。

現在部員は、3年生男子5人、女子3人、2年生男子7人、女子5人です。1年生も男子4人、女子9人が入部しました。



昨年度の主な活動状況をご紹介します。

4月30日：晴海総合高校との練習試合（晴海総合高校にて）

6月12・19日：都総体。3年生は引退（東京武道館）

7月25日：駒沢女子高校との合同練習（駒沢女子高校にて）

7月31日～8月1日：合宿（新潟県）

8月20日：練馬高校・杉並総合高校との三校戦（光が丘公園弓道場）

活動実績は以下の通りです。

二段昇段者：2名 初段昇段者：2名

三校戦：女子団体優勝

他校に比べて施設面で恵まれています。常に謙虚に素直に稽古に精進してもらいたと思います。

弓道部顧問 石川 一郎

幹事総会報告

6月17日（日）、平成24年度定時幹事総会が母校視聴覚室で開催されました。当日は39名（委任状355通）の出席により、総会が成立しました。

最初に、月岡会長より、70年の井草の絆を深め合って、同窓会活動の更なる発展をめざしたいとのあいさつがありました。続いて、名誉会長である浅井校長先生より、70周年式典行事への協力、様々な形での学校支援に対する感謝の意が述べられ、国際交流活動の成果や進学率向上などの報告がありました。そして、来賓としてご出席の東副校長、安部PTA会長より、引き続き母校支援への協力をお願いしたいとお話がありました。

その後、平成23年度事業報告、決算報告があり、続いて24年度の事業計画・予算案などについての案件が審議され、いずれも原案通り可決されました。

新役員紹介（平成24・25年度役員）

会 長	月 岡 健 一 17G	会 報	鎌 形 香代子 27F(兼)
副 会 長	瀬 尾 行 弘 8B		中 井 淑 子 7C(兼)
顧 問	植 木 謙 21D		瀬 尾 行 弘 8B(兼)
	樗 木 莊 太 29I		新 井 雅 晴 13D(兼)
	隆 野 豊 子 1		原 新 妻 成 一 35F
	岡 安 敏 子 4F		◎ 谷 明 7D
	遠 矢 良 隆 6A		○ 安 田 忠 21D
	新 井 雅 晴 13D		安 渡 辺 正 義 9C
	◎ 中 井 淑 子 7C		丸 山 一 雄 10C
	○ 本 藤 智 子 25I(兼)		岡 部 隆 行 13E
	大 西 久 江 5E(兼)		島 田 俊 明 20A
	安 田 忠 21G(兼)		原 田 美 幸 24D
	原 中 村 啓 京 14G(兼)		伊 集 院 直 子 30B
	渡 辺 旭 2B		堀 井 直 樹 62F
	新 井 雅 晴 13D(兼)		新 井 健 一 16B
	佐 藤 治 子 高女I		丸 山 隆 13D
	金 沢 美保子 3B		熊 井 和 子 15F
	平 岩 允理子 6C		中 村 房 子 27G
	鎌 形 香代子 27F		中 村 俊 宏 64A
	原 田 美 幸 24D(兼)		葵 智 宏 64A
	祝 裕太郎 16B		若 竹 拓 斗 64B
	村 上 俊 雄 25E		清 水 涼 子 64B
	藤 尾 智 子 25I		丸 尾 凱 也 64C
	久 米 浩 一 26D		岩 園 瞳 64C
	大 西 久 江 5E		田 村 晃 佑 64D
	◎ 原 京 代 14G		弓 山 茉 莉 64E
	○ 中 村 福 代 14G		伊 佐 祐 里 子 64E
	隆 野 豊 子 1(兼)		渡 邊 純 也 64F
	八 巻 孝 夫 18A		谷 内 田 佑 香 64F
	本 山 和 夫 20B		◎ 田 村 光 孝 31E
	佐々木 瑞 枝 13B		○ 小 林 恵理子 31B
	中 井 淑 子 7C(兼)		大久保 みつ江 18F
	岡 安 敏 子 4F(兼)		三 輪 則 子 20E
	原 田 美 幸 24D(兼)		田 中 信 雄 29B
	◎ 月 岡 健 一 17G(兼)		採 田 邦 子 29F
	○ 岩 崎 静 枝 30H		杉 山 薫 31F
	志 賀 直 彦 31A		野 秋 毅 31I
	井 上 晴 夫 24D		加 藤 康 正 33C
	高 橋 理 子 30C		幡 野 佐 子 34I
	加 藤 保 子 17B		持 田 尚 子 34D
	中 井 淑 子 7C(兼)		赤 穂 陽 一 31F
	◎ 植 木 謙 21D(兼)		豊 嶋 敬 一 31G
	○ 中 村 啓 子 18E		中 村 公 啓 18E(兼)
	中 村 公 3E		安 田 忠 21D(兼)
	西 田 実 17B		
	永 島 寿 江 18J		

◎は委員長 ○は庶務

平成23年度決算・24年度予算

収 入		(単位：円)		
項 目		H23年度予算	H23年度決算	H24年度予算
繰 越 金		2,089,730	2,089,730	2,399,940
入 会 金		855,160	855,160	947,160
会 費 収 入		3,500,000	3,008,970	3,070,000
寄 付 収 入		0	813,000	430,000
雑 収 入		10,000	16,925	10,000
計		6,454,890	6,763,785	6,857,100

支 出		(単位：円)		
項 目		H23年度予算	H23年度決算	H24年度予算
会 報 委 員 会 費		2,900,000	2,513,518	2,500,000
会 報 通 信 費		1,150,000	1,146,594	1,150,000
会 報 発 送 代 行 費		350,000	349,589	350,000
会 報 等 印 刷 費		1,300,000	988,436	900,000
委 員 会 活 動 費		100,000	28,899	100,000
名 簿 ・ 会 費 委 員 会 費		200,000	154,895	200,000
事 業 委 員 会 費		1,750,000	1,082,159	1,620,000
井 草 祭 参 加 費		130,000	109,286	150,000
OB・OG会・同期会・クラス会援助費		750,000	461,885	600,000
委 員 会 活 動 費		130,000	22,980	130,000
クラブ推進分科会活動費		10,000	0	10,000
井草高校活動費助成金		300,000	0	300,000
70周年記念事業費		430,000	488,008	430,000
同 窓 会 委 員 会 費		680,000	-20,643	200,000
広 報 委 員 会 費		300,000	165,704	368,000
インターネット委員会費		100,000	71,985	100,000
事 務 担 当 費		350,000	381,125	400,000
予算及び決算担当費		20,000	15,102	20,000
井草会事務所開設準備金		0	0	1,000,000
予 備 費		154,890	0	449,100
次 年 度 繰 越			2,399,940	
計		6,454,890	6,763,785	6,857,100
財 産 目 録（平成24年3月31日現在）		単位：円		
名簿積立金		700,000		
井草会事務所開設準備金		15,500,000		

注1 23年度は寄付収入の予算項目が無かったが、24年度から会費収入と寄付収入を分離したので決算報告では分離して表示。
注2 同窓会委員会の支出がマイナス表示されているのは、会費収入が総支出を上回り黒字会計となったため。



井草会掲示板

1 井草祭へのお誘い (事業委員会)

同窓会は70周年記念事業の一つとして本年9月15日(土)、16日(日)の井草祭において井草の今昔写真展および記念講演を開催します。

また、井草祭当日は、同窓会の部屋にお茶とお菓子をを用意したお茶席を設けております。

現在の井草高校を知り、過去の懐かしい時代をふりかえる良い機会ではないでしょうか。

皆様の参加をお待ちしています。

2 創立70周年記念協賛金寄付者名簿 (名簿・会費委員会)

下記の方々から貴重なご寄付を頂きました。創立70周年記念の協賛金として有効に使わせて頂きます。
ありがとうございました。

(敬称略、単位：千円)

高女1	宇部満寿子 3	高校7	木村 次男 3	高校12	中林 保彦 3	高校17	武石 彰人 3	高校26	渡部 英美 10
	古屋かほる 3		谷 明 20		細谷 春來 1		石川美津子 3	高校27	仰木 明 3
	末永 京子 10		出口 忠人 10		佐藤 真建 3		矢口 静世 3		伊藤 立実 10
	大久保京子 3		三村 明敏 8		下条 暉 1		月岡 健一 5	高校29	田中 穂積 8
	谷井 照代 18		渡辺きさ子 8	高校13	峯島喜実子 8	高校18	千葉 皓史 10	高校30	伊集院直子 3
	大谷 典子 3		沼滝 昌子 3		原沢 利弥 3		郡司 明郎 3		山村 寛子 3
高女2	永原 裕子 3	高校8	瀬尾 行弘 20		藤田 修吾 3		山田由美子 3		青木 章 1
高女3	山村 典 8		近藤 精孝 3		富岡 和子 8		千葉 優子 3	高校31	滝川 直 10
	辻 タケ子 3		本木 正也 3		岡部 隆行 1	高校19	高橋 勉 3		藤井 暁 30
高女4	阿部 妙子 10	高校9	山口 直子 3		早川 良躬 3		佐中 達郎 3	高校33	山内 智也 3
	関 美奈子 3		渡辺 正義 8		黒木 文子 10		篠塚 明 10	高校34	本多 重人 3
高校1	隆野 豊子 3		木村 忠正 10	高校14	松本 洋子 3		村田 勉 3		高野 郁人 1
高校2	谷 恭子 5		甘楽美登利 20		中川 秀直 10	高校20	野崎 暁 3		匿名 3
	匿名 3		渡辺 節子 3		林 健一 3		渡辺 信行 8	高校35	古賀 浩之 3
高校3	藤廣 洋子 3		野口 享子 8		岡本 徳蔵 3		村田 直樹 8		高良 直人 2
	井出 富子 3	高校10	関口 素子 3		原 京 3		大山 吉久 3		夏野 剛 30
	箕輪くみる 3		浅賀 捷代 20	高校15	田中 希史 3		田中 英明 3	高校36	36回同期会有志 93,700円
高校4	仲田 節子 20		柴山 義朗 18		星野 義行 3	高校21	植木 謙 5	高校37	伊藤 武 8
	中村 京子 3		越尾 安博 3		今井千恵子 3		北村 真澄 8	高校39	川崎 孝 10
	二木 培江 3		黒田 俊宏 2		堺 公子 3	高校22	戸倉 賢二 8	高校41	匿名 3
高校5	高橋美知子 3	高校11	沢野 圭子 3		川添 洋子 3		宮川理枝子 1		吉浦 和孝 2
	林野 礼子 3	高校12	尾崎 政雄 3		唐木 保之 8	高校23	手塚 雄二 50	高校43	岩田 正浩 4
	大西 久江 3		細野 恭代 1		熊谷 和子 3		原島 幸子 3	高校51	葛城 英彦 3
高校6	遠矢 良隆 3		鈴木 節子 1		小泉 彰 3	高校24	青谷 淳一 3	高校54	豊永 貴弘 5
	沢田 祐二 8		鈴尾 清一 3		玉井 弘之 3	高校25	荒谷 詩郎 3		井草倶楽部(野球部OB会) 15,000円
高校7	重廣 大樹 3		長沢 容子 1		小野 節子 3	高校26	杉野 俊哉 1		
	大村 洋子 10		山下 正 3	高校16	小峰 弥彦 20		佐久間利彦 3		
	中井 淑子 10		内藤千与孝 1		小林 平和 5		別所 嘉彦 4		

寄付者合計 135名 2団体、906,700円

恩師の訃報

吉瀬 勲 (S45年～S56年在職 数学)
小倉 義文 (S32年～S39年在職 数学)
大沢 清男 (S21年～S39年在職 国語)
武林 一成 (S38年～S43年在職 地理)
福島美恵子 (S21年～S52年在職 英語)

井草の今昔写真展

学校が保存しているもの、地元、区役所から提供された写真を展示します。

記念講演

「石神井城の謎と照姫伝説」をもとに学校周辺地の中世歴史を聞く

講演日：9月15日(土) PM1:30～2:30

講師：18回 A組 八巻孝夫氏

編集後記

45号の会報は、70周年記念事業の一環として制作された記念文集を併せ全体では16ページたての冊子となりました。

今後さらに会報の充実化に努めたいと思います。

井草会事務局：177-0044 練馬区上石神井2-2-43 井草高校内 TEL/FAX 0120-066-193
郵便為替：00120-4-84359 ホームページ：http://www.igusakai.org

井草高校創立70周年記念思い出文集

心に残る高校3年間 それぞれの人生の言葉です

高女一回生

佐藤治子（石橋）（高女1回 昭20年卒）

1、はじめに

昭和16年(1941年)4月に入学し、昭和20年(1945年)3月に卒業した私達井草高女第1回卒業生は、創立70周年を迎えたことに感慨も一入である。私達は大東亜戦争の戦前・戦中・戦後と、激動の中を生き抜いてきたのである。

2、仮校舎から新校舎へ引っ越し

入学は鷺ノ宮駅北側の仮校舎であった。木造平屋の隙間だらけの校舎で2年間勉強した。その後、現在の上井草に新校舎が出来て移動した。当時下井草・鷺ノ宮・西鷺ノ宮・上井草と4駅に渡り、机・椅子・理科の標本等学校用具などは手で、畑の中の道を埃に塗れながら、歩いて運んだのであった。何往復もこの長い道程(みちのり)を運んだ思い出は、強烈な印象として心に残り、消えることはない。

見渡す限りの畑で、農家の点在する上井草の新校舎での学習は、伸び伸びとして明るかった。

バスケットボール対抗試合で優勝したり、日本青年会館での合唱コンクールに出演したり、水泳やスポーツ大会、分列行進など思い出は尽きない。家庭科は雑草を摘んでの野草料理であった。

3、学徒勤労動員

2年生の半ばから卒業までの期間、大東亜戦争も末期となった。学徒勤労動員を余儀無くされ、軍需工場で働いた苛酷な女学校時代であった。

石神井公園には敵機のB29が爆弾を投下し戦場となった。

4、おわりに

この思い出は、貴重な体験として消えることはない。卒業記念アルバムも卒業記念文集も無いまま卒業したのである。

2008年(平成20年)・2011年(平成23年)と資料を集めて繙き、思い出を語る座談会の記録と、想い出の写真集アルバムを発行。卒業以来65年目のことであった。

強く逞しく、根気強く、そして優しく、思いやりの深い高女1回生なのである。

学舎の思い出

遠藤安子（野路）（高女4回 昭23年卒）

戦中、戦後と運命に操つられ井草高女時代を経験したことは、今となっては誰もが味わうことの出来ない貴重な時であったと思います。井草を卒業して早や63年、走馬灯のように過ぎ去ったものは、今では想像もつかない静寂な武蔵野の風景の中に井草の学舎があり、目を閉じれば絵巻物のように浮かんできます。春夏秋冬を肌で感じながら、春は桜並木、夏は木々の緑、秋には晩秋の夕日に雁、紅葉、冬には木枯らしが吹き、周りに障害物のない環境で、上井草駅から学校まで見通しの良い道を雑木林を抜けて、校庭兼運動場を横目に校門に入り、目の前の2階が音楽室でした。

国藤（近藤）ちか子先生がソプラノで歌うお声が今も耳に残っています。戦後というのに、クラシックのレコードを沢山聴かせていただき感謝しております。

担任の小沢芳子先生は若く美しく優しい笑顔で接していただいたことは、その後の私の人生に多大な影響を受けています。

教えを受けた青山先生、鈴木先生、福島先生、上原先生まだまだ数え切れない先生方が皆真剣にご自分の専門知識を惜しみなく教えて下さいました。とても懐かしく、忘れることが出来ません。

当時は構内履きがなく裸足で、校内の廊下の掃除はどの学級が一番きれいかと競争になり色々工夫をしました。糠袋を作り、それでピカピカに磨き、自分の級の前が一番きれいだと自慢したこと、級の団結も友達も仲良く、勉強の出来る方を尊敬し、暖かい人たちと学べたことの幸せ、人生で一番多感な時に環境と情操を培い、養っていただいた諸先生方に心よりお礼申し上げます。

今の学校教育を思う時、物に恵まれ豊かに見える反面、心が貧しくなっている現実を憂う日々です。私たちは夢と希望を持って幸せでした。私の巣立った井草での精神を源に社会での保護司活動などにより平成19年秋藍綬褒章、宮中参内の栄誉をいただきました。

都立石神井・井草高校混声合唱団

藤廣洋子（岩岡）（高校3回 昭26年卒）

「創立70周年」おめでとうございます。思い起こせば私たち3回生は高校3年の年が「創立10周年」にあたり、式典をはじめ記念行事が多々催されました。

私はクラブ活動として音楽部に所属しておりましたが、昭和23年、男子高の石神井高校と合同で「都立石神井・井草高校混声合唱団」を結成、非常に厳しい練習を重ね、昭和25年11月4日「第5回関東合唱コンクール」に参加しました。見事に混声の部で1位となり、更に学生の部総合で第1位となつて、日比谷公会堂の客席の階段を石神井の代表の方と一緒に夢中でかけ降り、ステージ上で賞状とトロフィーをいただいた時の感動は、60年を過ぎた今でも忘れられず思い出されます。先に帰られた石神井の山田浅蔵先生、井草の近藤（国藤）ちか子先生のお宅へ、何人かのメンバーと興奮しながら報告に伺ったことも懐かしい思い出です。

27年には共学制となったため混声合唱団は解散となりましたが、何時までも歌いつづけたいの思いから、両校のインシヤルをとって「I・S合唱団」誕生。練馬公民館で第1回発表会を開くことができました。昭和27年3月1日発行の「井草新報」に山田・近藤両先生の「混声合唱団の解散」にあたり寄せられた文章が掲載されております。

70周年祝賀会で旧校歌を歌うにあたり、いまだにいろいろな形で歌いつづけている当時のメンバーの一部が顔を合わせ、現在のPTAコーラスの皆様とご一緒に歌う機会をいただきました。これ又、よい思い出となることでしょう。



人文地理

大西久江（多湖）（高校5回 昭28年卒）

2年の時、社会は生野真直先生の人文地理を選択しました。日本各地を訪ねて深い造詣をお持ちの先生の授業は大変面白かったのですが、時々10分間の抜きうちテストが行われました。お題は「山手線の全駅名を順にかきなさい」「都道府県名をかきなさい」「世界地図をかきなさい」等々・・・「社会に出たとき『△△へ出張しなさい』といわれたら困るよ」今みたいにGPSなどない時代でしたから。その時の答えは散々でしたが、その後しっかり覚えました。

このような授業が想い出深く脳裏に残っています。

こんな小さな青春が・・・

遠矢良隆（高校6回 昭26年卒）

いつも始業時間ぎりぎりに駆け込んでくる彼女がいた。髪の毛を口に噛むようにして、慌ただしく隣の教室に入るのを見て、いつからか気に留めるようになった。2年生の時クラス替えで、突然に僕の前の席に彼女がいた。その日から話もしないままドキドキと緊張の日が始まった。夏休みに入り、夏のキャンプに行ったのか？先生と彼女を含む友達からの寄せ書きのはがきを貰った。そこに最初に彼女の文章があった。「あの時はありがとう。下校の時急に雨が降り出し、自転車で帰れないで困っていたら、あなた（僕）が預かるよと言って、私の自転車で乗って雨の中を飛び出していったわね。助かったわ、ありがとう」とただこれだけの手紙に本当にこのことだけだったのに、僕は胸のつかえがとれるような気持ちに変わっていった。

あれから何十年か過ぎていく。でも僕の心の奥に強く風景のようにあの頃が思い浮かぶ。そして今も控えめに本棚の裏側に、その後に修学旅行で2人だけで撮った写真を大事にしまっている。享年50歳、早すぎる彼女との別れがあった。今も・・・。

あの風景

荒木 晋（高校7回 昭30年卒）

「井草の思い出」？半世紀以上も前の歴史だ。今の井草高校は優秀な進学校と風の便りに聞く。しかし、その当時入学してきた男子は自分も含め、他校に失敗して、たらい回しの落ちこぼれがほとんど。男女の比率は男が3分の1。当時、テレビはないし電話もない。唯一の楽しみはラジオで落語。井草まで徒歩で40分。道路は無舗装。荷馬車の馬糞が堂々と鎮座している。登校の途中西側の地平線まで畑が続き、地平線に富士山が見える風景。霜解けの泥道を踏みしめて白富士、赤富士、黒富士と心に残る風景に感動した。井草から還暦同窓会の話があり、同じ道を辿ってみた。道路は舗装され、家が立ち並び、あの風景が自分の心にだけ残る宝石であることを知った。校門にたどり着いたが、同窓会の兆しが無い。東中野の日本閣であった。古希を過ぎて「人生は一遍のドラマ」という言葉の意味が分かるようになった。



栄光の女子ハンドボール部

國友 榮（伊藤）（高校7回 昭30年卒）

1952年（昭和27年）第7回国民体育大会（福島）出場、1953年（昭和28年）第8回国民体育大会（愛媛）出場、インターハイ毎年出場、大阪藤井寺、東京駒沢グラウンド等、当時のハンドボールはサッカーと同じフィールド競技でした。広い井草のグラウンドを走りまわりました。グラウンド使用にはサッカー部、野球部との苦労もありました。石神井公園までランニングしたこと、国体参加費用を体育部が資金カンパしてくれたこと、練習を夕日が沈む頃までやっている時、グラウンドから見る夕日がとても素晴らしかったこと、私たちと一緒に赴任された天野俊雄先生には顧問としていつもお世話になりましたが、残念ながらお別れしてしまいました。でも思い出は沢山あります。後輩の協力で年1回集合しています。

コンサート

谷 明（高校7回 昭30年卒）

クラス仲間、満君にプレゼントされた2枚のチケットで会場の指定の席に近づく2席空いた左側の席に英語の先生が座っていた。

びっくり、。。。彼が先生からプレゼントされたチケットを自分にくれたのかと、とっさに思った。先生に挨拶をすませ席に着き、コンサートを楽しんだが、心はちょっと落ち着かなかった。その後、満君が先生にプレゼントしたのかもとも思った。一言いってあげればいいのに。共に行った下級生の静子さんとは、その後お付き合いすることもなく卒業してしまったが、荻窪駅を通るとどうしているかなと思った。彼女の家は日大二高の近くでした。

満君は早大に進学、後に新聞社でカメラマンとして活躍。私の結婚式でも衣装室で家内の写真を撮りまくり、式場の人も遠慮のなさに驚かれていた。普通じゃ見られない写真をいっぱいプレゼントしてくれたのを想い出す。

高校時代の思い出は盛りだくさん。女子とのキャンプに女子の兄貴がついてきたり、隔週5日制を活用し、サイクリングを仲間と楽しんだり、55年を過ぎた今もゴルフ、飲み会と親しい付き合いが続いている。

私にとって井草高校時代は人生の大事な収穫期でした。

60年前の思い出

大村洋子（本橋）（高校7回 昭30年卒）

創立70周年を迎えおめでとうございます。いつの間にか月日が流れ60年前の思い出となります。木造校舎の2階建てと1階建ての間に渡り廊下があり、コンクリートの中庭で朝礼や生徒会の報告など行われ、昼食後のひとときにフォークダンスの曲が流れ、一緒に入って楽しく踊ったことを昨日のように思い出します。クラブ活動の音楽部はコーラスの練習に夢中でした。アカペラで歌うフォスターの曲は音楽会でも良かったように覚えています。歌は今の私の生活でも、地域の高齢者の会で先輩や後輩の方々と共に日本の懐かしい歌を歌う時とても役立っています。

体育祭では仮装行列があり、私の組では夏目漱石の「坊ちゃん」を題に登場人物の服装で行列をし、プラカードを作ったりしました。

同級会を開き又井草の思い出を語り合えるように

願っています。
井草高校の益々の発展をお祈り致します。

「若さ、暴れん坊時代！」

瀬尾行弘（高校8回 昭31年卒）

8回B組は物故や不明の方が10余名ですが、あとは皆元気に頑張っています。

振り返れば、母校での3年間は正に青春真っ只中でした。大人一步手前で名状し難い不安な日々でも、伸びる若い力は前向きでした。勉強やスポーツだけで無く、映画鑑賞や友達作りに若き血潮を燃焼させ、キャンパスで繰り広げた毎日は、ほろ苦くも懐かしい思い出です。体育祭では時局を風刺した看板を背負い、グラウンドを一周したことを懐かしく思い出します。クラスは活気に満ち溢れ、運動ではハンドボール（女子）や陸上（男女）やサッカーで国体予選や都予選へと元気に飛び出して行きました。勉強では大澤清男先生に古文学習を熱心にご指導頂き、平安鎌倉の古典文学が読めるようになりました。昨年物故され残念です。担任の小澤芳子先生は常に温顔、温情で接して下さい、非行に走らずに済みました。

思い出は次から次へ溢れ出ます。

私の井草

甘楽美登利（大森）（高校9回 昭32年卒）

卒業して60年近く経った今も『井草高校』を想うと心があたたかくなる。

所謂進学校ではなかったし、何かスポーツに特に秀でているということもなかった。けれど、だからこそ、ごく普通の、常識的な、そして人間らしい先生と生徒の集まりになっていたのだろう。

3年間クラスが変わらなかつたこともあって私達は今でも年に何回もクラス会を開いている。時には登山、音楽会、旅行、etc. その折に

「大澤清男先生にいつも立たされたね」

「国語の時間に数学の内職していたよ」

「休み時間にはジャズを歌っていたし」

なんて想い出話で盛り上がる。

人生残り少なくなつて来た私達世代にとって、気のおけないこの集まりは本当に貴重なもの。私は『井草高校』に在籍出来たことにいつも感謝している。そしてこの“よさ”が受け継がれていって欲しいと願っている。

インターハイ

上田 浩（高校11回 昭34年卒）

私は中学より卓球を始めて、高校3年の夏、徳島で行われたインターハイ（全国高校選手権大会）に東京都代表として出場しました。2回戦で敗退しましたが、インターハイ出場が決まった時、体育の松島四郎先生が全校生徒を体育館に集めて激励会を開いてくれました。

高校時代は、授業が終わると西荻窪の自宅から三鷹にある卓球場へ自転車ですぐの道に通い、勉強はせずに卓球ばかりやっていました。当時、期末試験の順位が科目ごとに廊下の壁に張り出されるので、勉強ができないと思われるのもいやなので、1科目だけでも上位になろうと日本史だけ勉強して常に最上位に張り出されていたのを覚えてます。

早稲田大学では3年の時、同級生の木村興治君

（現在国際卓球連盟副会長）とダブルスを組んで、全日本学生選手権大会で優勝しました。

私は今自然の豊かな大好きな札幌に30歳の時から住んでいます。

高校卒業後54年の間母校を訪れたこともなく、時々体育館で卓球部の後輩達と卓球をしたことを思い浮かべていましたが、卓球部のOB、OG会が長い間継続していることを知り、とてもうれしく思います。そしてなるべく早く母校を訪問したいと思っています。

元気で札幌に居ますので、同窓生の皆様、北海道に來られたらぜひご連絡下さい。

電話 011-641-2875

サッカー部国体出場

吉田 豊（高校11回 昭34年卒）

昭和31年の夏、国体の東京予選大会決勝に勝ち進んだ井草高校は教育大付属高校（現 筑波大）に0対11で完敗。この試合では相手選手は皆スパイクを履いていたが井草は皆無。これを機に井草はスパイクを新調した。翌32年、教育大のサッカー部の現役選手の鈴木中さん（後に神奈川県サッカー協会会長）をコーチとして招聘し、チームを強化し大会に臨む。2回戦で教育大付属高校に勝ち雪辱を果たす。その後順調に勝ち進み、決勝では東京工業大付属高校に勝ち優勝し、その後の関東予選で勝利し国体への正式キップを得る。

晴れて国体に出場、開催地の藤枝では駅頭で当地の娘さんたちから名産のお茶を振舞われたことを鮮明に覚えています。大会の1回戦で、京都の山城高校（京都の名門・釜本邦茂の出身校）と対戦。試合は1点を先取したがオフサイドの判定、白熱した戦いは結局0対0の引き分け、当時PK戦はなく抽選で決定。封筒を引いた時の早坂キャプテンの顔が一瞬曇ったので負けを悟りました。この試合に勝っていれば2回戦は天覧試合でしたので残念な経験でした。

余談ですが、7年程前に地域の少年達と静岡・清水の大会に遠征した折、現地のチームの指導者に「井草高校を覚えてますよ」と聞かされた時、又他チームのコーチの1人が東京工業大付属高校チームの一員であったこと等、懐かしい思い出と人との出会いを感じました。

組委員 選挙始末

早川良躬（高校13回 昭36年卒）

「あつ、あの頃の自分だ」注意力欠除、閉じこもり、白昼夢。ボランティア先の施設で発達障害の子たちを見ての実感である。

そうした私が1年E組の中央委員に選ばれた。生徒会副委員長に転出した三田君の後任だった。補欠選では立候補者無し。「では誰か推薦を」となった時、右隣のM子が「ハーイ、早川君を」と叫び、パラパラの拳手で幕。「止せよ、おい」むっとして彼女の頭をこつんとやったが後の祭り。あつてはならぬミスキャスト。当然ツケが回ってきた。当人よりもE組にである。自分の頭の蠅も追えない者に何が出来ようか。然るに3年間、委員のまま店晒し。それが現在、クラス会ばかりか同期会の幹事に名を列ねている。今はただ粗相を黙過、包容してくれた玉置繁代先生や級友の優しさに謝するばかりである。

中庭でのフォークダンス

内堀田鶴子（大村）（高校13回 昭36年卒）

昭和33年4月教室でお弁当を食べているとフォークダンスの曲に続いて「中庭でフォークダンスをします。1年生も出て来て下さい」との校内放送がありました。

おずおずと出てみると上級生の男女が華麗に踊っています。「うわぁー」と見とれていると「さあ、踊りましょう!!」と少女マンガのイケメンのように見えた3年男子が手を差し伸べてくれました。

「オクラホマミキサー」「コロブチカ」「コリード」「アレキサンダースキープ」またたく間に憶えて、フォークダンスのために学校へ行っているような毎日でした。

今でも憶えているメロディーと踊り、フワッと広がる女子のスカート。バラ色の人生??の幕が上がった15歳の春でした。

うぶな恋とフォークダンス

竹村 裕（高校13回 昭36年卒）

井草の思い出と言えば、私にとって、まさに青春まつただ中です。卒業してから50年以上もたった今でも思い出の中心にあります。親しい友人と言えるのは高校時代の仲間ばかり。長い人生の中わずか3年しかなかった高校時代に得難い仲間に恵まれたと思います。50数年前の高校生は、私が知っている範囲では皆純情でした。私も好きになった女性に告白することも出来ず、あこがれの眼差しで見つめるくらいが関の山でした。

私が好きになった女性はクラスが違い、体育の授業も一緒になることがなかったので社交ダンスを踊る機会はなく、フォークダンスも昼休みの中庭か井草祭の時、よほど運命の女神に微笑まれないかぎり一緒に踊れることはありませんでした。

あこがれの女性と1対1のデートなどまず考えられず、グループで一緒にお茶を飲んだり、公園などに出かけたりすることが出来た時は、有頂天になったものです。

井草とダンス

徳田昌子（佐々）（高校13回 昭36年卒）

私達は今では想像も出来ない校舎で学んでいた。木造の上、老朽化していて春には窓の隙間から容赦なく校庭の砂塵が教室の隅々まで覆った毎日だった。その当時の私は華奢で病弱で神経質だったので、朝一番の仕事は机を拭き、そして教科書を徐に広げるのが日課だった。私達、午年生まれが学んだ校舎は「馬小屋」だった。そんななか、不得意科目の国語の授業で「鏡見てネクタイなおす 兄年頃」選ばれて黒板に書かれた嬉しい瞬間だった。お酒、麻雀、優さを教えてくれた兄、その兄もすでに他界。大切な思い出である。

あの頃、先輩の影響もあり、デキシードランドジャズの流れに心を打たれ夢中になった。中庭にフォークダンスの曲が流れ、興奮し吸い込まれるように足が向き、心躍った楽しい思い出がある。あのひとりの順番が来たらどうしよう・・・とわくわく心を躍動させた。そんなときずっと頬を赤く染めていたことだろう。

お蔭で私の人生の中でダンスは何時も一緒だ。ジャズダンス、タップダンス、そして今、古希を前にソーシャルダンスを日々楽しんでいる。「ダンスよありがとう!」「井草高校ありがとう!」

輝いた季節

岩崎節子（片岡）（高校13回 昭36年卒）

創立70周年。私達が生まれた時にでき、共に成長してきたのかと感無量の思いがいたします。入学した当時は古い校舎で風が吹く度に赤土が舞い上がり、教室中が砂だらけになりお掃除に苦労したものでした。それでも昼休みのフォークダンスは楽しみで、毎日踊ったのを覚えております。そして、秋の文化祭前夜のキャンプファイアー、お目当ての男子に当たった時は胸がトキメキました。校舎の裏を出て雑木林を歩きながらの友との語らい。正に青春真っ只中でした。文化祭で恐れおおくも世紀のロマンス、当時の皇太子様と美智子様のお衣装をすることになり、夕方遅くまで仲間と準備に勤しんだこと。

思えば、喜んだり、悲しんだり、悩んだり、これまでの人生の中で一番輝いた季節であったと思います。

野球とサッカーを結んだ渾名

島崎 昂（高校14回 昭37年卒）

私は中学で野球部に所属し、2塁手で浅黒い顔だったため、当時プロ野球阪急ブレーブスの2塁手バルボン（黒人選手）が渾名になりました。高校に入学してからは国体に出場経験があり、東京都で常にベスト8に入っていたサッカー部に入部したいと思い、校舎の西側にあった薄暗い部室に入ったところ、高校生とは思えない顔の3年生（吉田一郎先輩）が応対してくれましたが、その時何を話したか全く記憶にありません。それから毎日放課後、厳しい練習が待っていました。

私の中学にはサッカー部がなくボールを蹴るのは初めてだったので、利き足ばかりで蹴っていたため、右太ももが腫れ全くボールが蹴れなくなりました。筋肉が剥離し血液が混じったリンパ液がたまっていたためで大きな注射器で液を抜かれました。

1年の秋、東京都の新人戦で優勝し、真田幸男校長がご馳走してくれたことが今でも忘れられません。

高校でもいつの間にか同じ渾名で呼ばれ、先輩・同輩からはバル、後輩からは殺虫剤の商標と同じバルさんと呼ばれていました。

大学のサッカー部でも本名は呼ばれず、現在でもこの渾名で通っています。

大澤先生との思い出

林 健一（高校14回 昭37年卒）

昭和34年、八重桜咲きわたる井草高校に入学した。クラスは男子25名、女子29名で前身を物語っていた。担任は「大澤清男」先生37歳、教育に関し大変な情熱家であった。「生徒の学力向上と人間として必須要件を身につけさせ、併せて自主・独立の精神を養う、という気持ちで教育していた」と言う。

我々はクラブ活動を活発に行い、休日には大勢で行動を共にし高校生活を謳歌した。

男子は殆どが進学で、東大始め国公立3、早慶7他と進み、女子は12名が大手銀行に8名が進学した。クラス会は毎回25名程が出席し、大澤先生の講義を聴くのが常であった。資料も5冊にのぼる。40歳過ぎると官房長官、大学教授、校長、企業では殆どの者が部長以上になっていた。先生から「皆の努力に驚いている」とまで言って戴き、我々は「先生のご指導のお陰です」と返した。平成23年秋、先生は90歳で他界された。

初めてのG組

原 京（高校14回 昭37年卒）

私たちが入学した年は、戦前最後の今で言うベビーブームの影響を受け、A組からG組の7クラス編成でした。

私たちG組は他のクラスとは、昇降口をはさんで特別教室のあとだったのでしょうか、校舎の西の端の他の教室より少し広い部屋でした。特別といえば私たちのクラスだけ、国語の乙は真田幸男校長先生が教えてくださいました。左の手のひらに教科書、その上に茶色の木製のチョークボックスを載せて背筋をピンと伸ばし、右手で手刀を切りながら教室に入ってこられ、古文を教えてくださいました。確か授業の始まる前に10問ほどの小テストが毎時間あったように覚えています。

真面目な高校生ではなかった私ですが、このときのクラスメートは皆かけがえのない友人で、今でもその時のグループを中心に卒業してから今年で50年、年に何度かは食事をしたり、旅行をしたりしています。

自由な中にも規律があった井草高校で楽しく過ごした3年間でした。我々のクラスは住所の確認できる人の中でも、もう黄泉の世界に行かれた方もおりますが、みんな元気に70歳を迎えたいと思っています。

佐渡一郎先生との思い出

小泉 彰（高校15回 昭38年卒）

来年で卒業50周年を迎える38年卒・18回生G組の小泉です。

私達は3年間、クラス替え無しで佐渡先生にご担任頂きました。そのぶん他クラスとの交流は、選択科目や部活でしたが、G組内の絆は大変深いものになりました。

佐渡先生は、体育が専門でしたので、特に体育祭でのG組の張り切りようは、他クラスを圧倒する頑張りでした。大学生になってから、佐渡先生引率の富士見高原の母校の林間学校のお手伝いに行ったことも、大変良い思い出です。

卒業後も先生ご自宅でのクラス会開催、先生の体調がすぐれない時はご自宅周辺でのクラス会開催を継続的に行って参りました。が、昨年1月ご逝去されました。生涯教師を掲げられ、母校の教師をおやめになった後も、東北学院大学、順天堂大学等で教鞭をお取りになった佐渡先生をクラス一同尊敬し、又、慕っております。

今年の4月には「佐渡先生を偲ぶ会」としてクラス会を開催致します。

先生の一言

林 郁也（高校17回 昭40年卒）

井草高校在学中の思い出は結構あります。クラブ活動もあわせれば、記録には残っていませんが、自分の記憶に残る思い出は数え切れません。高校生活は短いですが、その後の人生の方向づけに大きく影響を与えた3年間であったように思います。劣等生が人生を決めたかも知れない先生との面談時の会話：

「物理は嫌いか？」「だいいきらいです」

「授業が判らないか？」「判りません」

「よし、これから物理は勉強しないでいいから、その時間を自分の得意な科目に注げ！」

「あのう？卒業が心配ですが」「心配するな、卒業はちゃんとさせてやるから」

そうか、好きなことだけをやってもいいんだ！

実は自分に少し自信がつき始めたのは、間違いなく

この会話からであると確信しています。

先生がこんなことを云っても良かったのかどうか知りませんが、少なくとも井草高校の卒業生の一人が、この会話のお陰で世界に羽ばたいたことだけは間違いありません。感謝しております。

井草高校の思い出

山田泰子（岡村）（高校17回 昭40年卒）

私が井草高校を受験したいと思った理由は、実家（生家）が商店でしたので、せめて三年間は緑の多い所で学びたかったのです。都立案内書の校長の指導方針、最寄り駅から七つ目という利便さも気に入りました。合格して初めて聞いた校歌もとても美しく、今でも時々口ずさんでおります。

すぐに友人も出来、部活や井草祭等の楽しい思い出が走馬灯のようによみがえってきます。部活の上級生から聞いた「井草の七不思議」には残念ながらひとつも遭遇することはありませんでした・・・。

一番思い出すことは先生方、生徒の中にユニークな方がとても多かったということです。

あっという間の三年間でしたが、私の青春が凝縮されていたと思います。

我等が母校七十周年おめでとうございます。

サッカー「都立なら井草」

鈴木京二（高校19回 昭42年卒）

私にとっての井草高校は、サッカーをやりに行くための高校でした。中学の先輩から「都立なら井草」と勧められ、幸運にも合格しました。当時の井草は東京で指折り数えられる強いチームでしたから、先輩方からは厳しい指導を受けました。60歳を越えてもサッカーをやり続けられているのは、井草高校サッカー部のお陰だと思っています。

当時の井草高校の入試レベルは都立の中ではかなり下の方で、レベルの高い高校に落ちた人達が回って来る制度がありました。そんな中で「井草に入れた」喜びで弾んでいた私は、今でもクラス会で顔を合わせる仲間に「お前は本当に明るかったよな」と言われます。今でも大泉・石神井OBとの混成チームに栃木県から馳せ参じてサッカーを楽しんでおり、一生を「井草高校に通った幸せ」で暮らすことが出来そうです。

井草祭の思い出—あれは昭和42年の秋

村田直樹（高校20回 昭43年卒）

我が3Gは音楽に興味を持つ生徒が多かった。彼らは吹奏楽部々員でもあり、文化祭での発表に向けて放課後、毎日教室でサキソホンを吹きギターを奏でピアノを弾いていた。

或る日「村田、ボーカルやんない？」と聞いて来たのは内藤知文。彼らのレパートリーに唄える曲があったのだ。そして唄った歌が「柳ヶ瀬ブルース」、出井喜一は「五木の子守唄」、午前午後2回の公演(?)だった。教室が会場だったので、直ぐ目の前に生徒や父兄の顔がある。午前中はアガリ午後は落ち着いてイケタ。今でもカラオケで唄う歌は「柳ヶ瀬ブルース」だ。

井草祭の最終日は体育祭。仮装行列で私はアイデアを出した。全員覆面を被り裸になってプロレスをやるのだ。昭和40年代はプロレスが盛んだったことと、我

がクラスには格闘技好きの多かったことが理由だった。女子生徒が色とりどりの覆面を縫ってくれた。奇声をあげポーズをとりながらグラウンドを練り歩いて一周した後、審査員の前で縄のロープを張り、タッグマッチを始め最後はレフェリーのシャツを破くという演出で最高得点。体育祭では応援団もみんなでやった。

高校時代を振り返る時、数学物理化学等の公式は奇麗に忘れたが、みんなで力を合わせた文化祭と体育祭の思い出が一気に甦って来るのは何故だろうか…。

校舎の思い出

植木 謙 (高校21回 昭44年卒)



私が井草に入学した昭和41年は日本が高度成長期時代で、高校の風景も大きく変わっていく時期でした。

正門を入るとすぐに井草を象徴する1本の杉の木が植えられており、その右側には井草創立時に建てられた古色蒼然とした木造校舎がありました。

中学時代3年生でようやく鉄筋の新校舎で学べた私は、高校はもっと環境もよくなるだろうと勝手に期待していましたが、高校1年目にはまた古い木造校舎に逆戻り、更に体育館も木造だったのには落胆したものです。

私は卒業後卓球部OBとして年に数回程度は高校へ行っていましたが、私が卒業してからの井草は校舎や体育館が急速に新しくなり数年後の後輩を羨ましく思ったものです。しかし、卒業後43年、今とても井草が懐かしくなるのは、現在はない古ぼけた木造校舎と雨漏りがした木造体育館、それに正門の前に立っていた杉の木です。それらはまさに私が過ぎた青春時代の井草の風景であり、生涯忘れることのない井草の思い出です。

我が青春の道標べ

小宮 博 (高校21回 昭44年卒)

あれは高校2年の夏休み、訳あって下宿生活。読書三昧。若さ故の強がりで見える物全てに逆らってあまり良い生徒ではなかった様な。修学旅行、卒業式は3日前に許可されると言う苦い思い出も今は遠い日の青春の迷い道。

そんな日々にも道標べがふたつ。今はなき山岳部の合宿、南アルプス、奥秩父。今も本棚に眠る山岳地図、山行計画書。26歳で自ら命を絶った山岳部顧問との山頂での笑顔のモノクロ写真。山は青春の道標べ。

そして“何故か気になる”隣のクラスの女の子。長い黒髪、細い指、その指先に触れたなら青春の迷い道から救われる道標べ。当時の井草高校女子の制服、胸に付けた白い校章、全ての女子を美しく清らかに飾っていた。そんな制服に身を包んだ彼女とは、卒業迄一言も言葉を交わした事も無く。しかしいつの日か朝のホームで待ち合わせ、上井草駅から正門迄。そして“何故か気になった女の子”と同じ屋根の下で37年。毎日が同窓会。原点は井草高校44年卒。

かけがえのない井草の思い出

谷村春樹 (高校22回 昭45年卒)

井草高校にはかけがえのない思い出がいっぱい。それは同時に素晴らしい人との出会いの連続でもありました。クラスメイト、ハンドボール部、井草祭など、たくさんの出来事の中に多くの出会いがありました。

中学まで人見知りで大人しかった私にとっては、実に刺激的で新鮮な人たちとの出会いであり、毎日でした。

井草祭でディスク・ジョッキーをやったこと、ボンファイヤーのフォークダンスでときめいたこと、ハンドボール部でかけがえのない先輩や仲間に出会えたこと、当時の顧問山田稔先生を囲み、いまだに忘年会をやれるのが誇りです。

その後ずっと長い間、何代もの後輩たちと一緒にいった山中湖の合宿、三年間つきあった素晴らしい“悪がき”たち、その内の何名かは今でも折りにつけ私の前に現れる。

数え上げればきりがありません。とにかく私の人生の中で大きな転機となった大切な大切な時間でした。

青春時代

日野裕子 (田島) (高校23回 昭46年卒)

私が井草高校に入学したのは学校群2年目の昭和43年です。高校時代で一番の思い出は部活です。女子ハンドボール部に入部し毎日真黒になってボールを追いかけていました。

当時は校庭の隅にコートがあり、野球部とサッカー部がすぐそばで練習していて、時々そのボールが飛んできて恐れ思いをすることもありました。2年生の夏合宿は特に印象深いものでした。当時は多くの運動部との合同合宿で、バスを連ねて合宿地日立に向かいました。

合宿での練習は暑くて、きつくて、バテバテだったなというくらいしか覚えていませんが、一日の練習を終えて宿舎への帰り道、心地よい疲れと充実感、仲間との何げない会話など、今でもキラキラした場面が浮かんできます。夕食後宿舎のプールではしゃいだり、夜の海岸を散歩したり、青春の真っ只中の思い出です。40年以上たった今でも、当時の仲間は大切な友達です。井草高校、いつでも青春時代にタイムスリップできる場所です。

美術の時間

井上晴夫 (高校24回 昭47年卒)



「レンガを毎日ひとつずつ積み重ねていくのだ。それが生きていくことだ」心に残っている青山兵吉先生のひとこと。「井上の線はルノワールのようだね」先生は一人一人の特色に目をとめて、声をおかけになります。後日、ルノワールの細かな線で表現された素描の実物をみる機会があり、先生の言葉の意味が分かりました。

「いつもよりずっと大きな紙に描いてくること。題材は自由」ある夏休みの美術の課題でした。10日間ほど近くの森に向かって描き続けました。その日の天候、時刻によって、森の表情は刻々と変わります。青みがかった緑、茶色の入った緑、黄色の入った緑、沈んだ緑を散りばめて絵を仕上げました。「ふーん」とおっしゃったあと、青山先生は絵をお持ちになりました。学校の玄関の正面に貼って下さっていたその絵を見つけたのは、しばらくたってからでした。井草という今でも思い浮かぶのは、青山先生の美術の時間です。



今日の休講板

渡部英美（高校26回 昭49年卒）

入学した時から私はアナウンサーだった。朝の校内放送から井草祭まで一手に引き受けていた。本当に楽しい時期だった。高校3年生になった昭和48年4月。私には、ひとつのアイデアがあった。朝、生徒が一番欲しい情報、それは「休講」の知らせだった。

休講板には、授業が始まる直前にその日休みの先生の名前と時間が記入される。放送室の真下の職員室。そこにマイクをケーブルごと垂らして実況した。「おはようございます。今日の休講板の時間です。今日お休みの先生と担当のクラスをお伝えします。数学吉瀬勲先生、1時間目は1年C組。おめでとうございます！」放送と同時に2階から「わーっ」と歓声が聞こえた。放送は校内の話題となり、僕は鼻高々だった。

放送を始めて3日後、先生に呼ばれた。「ワタナベ君、休講板は止めてくれ。近くの家から『何やってんだ』と電話がきたぞ」放送は、校庭のトランペットスピーカーから聞こえていた。お叱りを受けて「今日の休講板」は敢えなく終了した。小さなジャーナリズムが体制に負けたと気づいたのは、プロになってからのことだった。

井草高校と私

穴戸鈴子（北野）（高校26回 昭49年卒）

井草高校の校門をくぐった時、同じ中学校からは女子が1人という不安がいっぱいでした。その後すぐに学校にも慣れ、卓球部に入り、楽しい3年間を過ごしました。ゆったりと自由に過ごしていた気がします。のんびりした私の性格に合っていたのでしょう。

1年生の時、今にも壊れそうな木造校舎で過ごしました。たいへん仲のよいクラスで、今でもクラス会を行います。小学校教員の現在、その級友の1人と同じ学校で勤務しています。以前の学校でも、もう1人の級友と勤務しました。さらに、もう1人の級友のお子さんや卓球部の先輩のお子さんの学校に勤務し、井草高校とのご縁はきれません。

卒業式は、体育館の建て替えのため、杉並公会堂で行われたことも思い出の一つです。

恋愛の井草

大友みね子（市川）（高校29回 昭52年卒）

パンダが初めて上野にお目見えし長嶋が現役引退したあの頃、高校受験を迎えた私は34群に合格したもの、学校群に振り分けられて望んではいなかった井草に決まり、複雑な気持ちで桜の門をくぐりました。オーバーオールに下駄履きのロン毛男子あり、巻き髪に薄化粧の女子あり、というリベラルな校風の下“肩で風切る”女子ハンドボール部で汗を流しました。あんなに狭い校庭で野球部、サッカー部、ラグビー部まで練習していたのだから不思議です。部活後の30円パンとチェリオは青春の味…。男子に人気は「喜八」の麻婆丼でしょうか。

生徒総会の人数確認の後、自転車ごと塀を乗り越えて帰宅した某女子、定時制の女子学生と机の中の置き手紙で愛を確かめ合った某男子…。個性豊かなクラスメートに囲まれ、卒業して36年経った今、井草の一員でいられることの幸運をしみじみ感じます。「恋愛の井草」の御利益で結ばれた同級生夫婦は8組…。その中のひとつが我が家です。

井草に感謝

伊集院直子（三浦）（高校30回 昭53年卒）

これから都立高校34群を受験しようという15歳の春に、父の札幌への転勤が決まりました。普通の親なら何とか札幌の高校を受験させるなりして娘と一緒に連れていくよう努力すると思うのですが、私はそのまま都立を受験して井草に合格し、母の実家に預けられて置いていかれました。2年生になると空家だった練馬の自宅で一人暮らしをしていました。毎日親と生活をして、お弁当を持ってくる友人たちが羨ましかったです。成績ももちろん散々でした。未だに英語の予習をしていなくて、あわてる夢をみます。

でも、家族と離れていてもそれ以上に井草での学校生活は楽しく、毎日学校へ通うことが生きがいでした。多くの友人に囲まれ、特に井草祭、体育祭のときには、いつもはりきっていたのを覚えています。

井草で3年間の充実した時間を過ごせたことは、今も私の人生の大きな支えです。井草の友人、先輩方、先生方、そして井草高校、ありがとう。

井草の連中

辻田洋一（高校30回 昭53年卒）

井草高校で過ごした日々は、僕の50年ちょっと生きてきた人生の中で、懐かしい良き思い出の多い時代である。勉強、スポーツも特にこれと言った達成感はないのだけど、ここで出会った友達、先輩、先生方と過ごした日々が僕の青春時代を作っている。あの頃の井草高校のノンビリした雰囲気が、結構自分に合っていたのだと思う。

だから、僕の友達、親友と呼べる人の数は、井草で出会った連中が他の時代よりかなり多い。今でも年に何回か会う友達は、殆どが井草の連中である。今でも多少のライバル心を持ち続けながらも、損得勘定なしに胸襟を開いて、青臭い書生論を交わせる連中でもあり、お互いに支え合っているような感じもあり、僕の宝物となっている。

こういう良き友と出会えた井草高校には、いつも感謝している。

復活 男子体操部

服部正人（高校31回 昭54年卒）

体操が好きだった私は、男子部員ゼロの女子体操部に入部しました。実は中学時代も同じことをやって失敗しています。中学時代は男の指導者がいなかったために練習すらままならず、どうにもならなくなり退部しました。

ところが、井草は公立高校なのにつり輪があったこと、顧問の渡部正輝先生が体操の元オリンピック候補だったことを知って、忘れかけていた体操への想いが蘇り、再度の失敗を覚悟の上で、また女子体操部に入部したのでした。

非常に遅いペースながら、床運動だけは上達しました。そして3年のとき顧問の渡部先生より大会出場を勧められました。「お前のこれからの人生のために3年間続けてきた証を残せ」ということでした。誰でも出場できる国体予選でしたが、私にとっては技術的に無茶な出場でした。それでも5種目棄権で床運動だけ出場しました。その床運動も参加選手中、ダントツの最下位でした。審査員にも苦笑されたことを覚えていま

す。しかし、私は出場を勧めてくれた渡部先生に感謝しています。本当にやりたかった体操です。出場しなかったら一生後悔していたことでしょう。無価値でしょうが私には価値のある経験でした。

何かを始めた後悔しないように最後まで全力で取り組むことを、親になった今、子供達に伝えています。

なお、私が入部した翌年に1年男子の後輩が3名入部しました。その後輩各位の頑張りで、その後の井草高校男子体操部は隆盛になり、10数年間にわたって活発に活動していたと聞いています。

つながり

藤野 薫（高校33回 昭56年卒）

井草を訪ねる日が近づくにつれ、高校時代の平凡な思い出さえも色鮮やかによみがえってきます。今でも上井草駅から学校までの風景は、昔とあまり変わっていません。ただ、畑があり、緑に満たされていた学校の周りは住宅に囲まれています。

私は卓球部に所属していました。毎年、クラブの現役とOBの交流を目的とした会を井草で開催しており、卒業後も参加しています。

会の名称は『草門会』。今では50名以上集まります。草門会を開催するに当たり現役、OBの方たちに原稿を依頼して『球音』という小冊子を発行しています。今年で43号になります。一次会は体育館でOB・現役の混合チームによる交流試合を楽しみ、二次会はレストランで近況・思い出話に盛り上がり、最後はみんなで校歌を合唱して閉会となります。

参加を重ねるたびに顧問の先生・先輩・後輩との信頼関係が深まり、昭和27年卒業の大先輩から現役の後輩まで、幅広いお付き合いをさせていただいています。今でも、私と井草をつなぎとめているのは、それぞれの時代背景を井草で過ごした人たちとの素晴らしい出会いを、いつまでも大切にしたいからです。

最後の井草祭の後で

福沢光一（高校35回 昭58年卒）

秋深まり夕闇と夜風が迫るなか、校舎や校庭のあちこちで人影が動いていた。井草祭の1週間前、文化祭での演劇や演奏の発表、体育祭での応援団やマスコット製作、1年生は上級生の姿を見て「井草の自主性」を学んでいた気がする。先生の目が注がれていない自由な空間を体感し「高校生になったんだ」という嬉しさがこみ上げた。生徒が主体になってつくる井草祭、フィナーレは焚き火を囲んで異性とフォークダンスを踊った。「共学で良かった、私服通学の井草で良かった」入学した1980年秋のことだ。

しかし、年月は静かに過ぎていく。卒業まで半年の1982年秋、生徒として井草祭に参加できるのは今回限り。「来春になれば井草を追い出されてしまう」と思うと、1年生の時の感傷的な気持ちにはもう戻れなかった。自主性を尊重する井草は学習面でも同じ、自分で学ぼうとしなければ勉強を教え込む校風ではなかった。

卒業後予備校に通い始めた僕は、毎日5回も6回も卒業アルバムを開いた。そこには学友の笑顔があふれ、もう「あの日」に帰れないと思うと切なくなったが何度となく開けてしまう。かけがえのない3年間だったのだ。僕にとっての最後の井草祭から30年が経つが、井草祭直前の自主的に取り組む学友の姿とキャンパスの風は鮮明に覚えている。きっと学友たちはあの時の澄んだ眼差しで、それぞれの道を歩んでいることだろ

う。井草高校校歌の一節「踏みゆく自主の道」のように。

級友Kの「やまされ教」

関口秀夫（高校40回 昭63年卒）

「やまされ教に入信しないか」と級友Kから打診されたのは、受験を控えた高3の秋のことであった。

「やまされ」とは「病よ去れ」が短縮されたものであり、「やまされ教」の呪文を一心に唱えれば、どんな病もたちどころに治る、というのである。その頃私は、部屋で夜な夜な遭遇する白い影に怯え、受験勉強どころではなく、藁にもすがりつく思いで入信した。

その夜、勉強を終え、布団に入った私はなかなか眠れずにいた。何か嫌な気配に目を開くと、テレビのブラウン管に、いつもの白い影が映っている。私は教わった呪文を白い影に向かって一心に唱えた。「やまされやまされやまされ・・・ジンバリハラバリタヤ、ウンッ！」

それはどうやら逆効果で、白い影に鬼の形相で睨まれた私は金縛りになった。身も凍る恐怖に朝まで眠れず、赤い目をして教室に行くと、友人Kはぬけぬけと、「今日もやまされの呪文を唱えよう」と言った。

このだまされ教がっ！

編集後記

70周年記念事業の一つとして「思い出文集」の制作にあたり高女1回生（昭和20年卒）より高校40回生（昭和63年卒）の幅広い同窓生の方々に寄稿いただきました。

平成22年7月記念事業の打合せに始まり、23年7月会報での募集告知、24年5月の校正まで十数回の打合せを経て、文集は完成致しました。

楽しかった高校時代の思い出に接し、青春を謳歌し、人生の大切な時期をすごしたことが読みとれます。人生の伴侶にこの時期に会えた方々も多くおられたことに、羨ましくさえ思われます。

寄稿に際し文章の内容や字数等お願いごとをしてまいりました。ご協力いただきありがとうございました。

同窓生の輪が、同窓会を中心にさらに拡がることを願い編集後記と致します。

文集制作委員

谷 明、遠矢良隆、中井淑子、岡部隆行、丸山 隆、原 京、月岡健一、西田 実、植木 謙、安田 忠、覚田純子、鎌形香代子、伊集院直子

平成24年8月20日

井草会 事業委員会